

JENESYS2015 派遣プログラム (マレーシア／大学生・大学院生) の記録

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム」の一環として、マレーシアへ日本の大学生・大学院生 23 名が派遣され、日本の自然、社会、歴史、文化、技術に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、3月15日から3月23日までの8泊9日の日程でプログラムを実施しました。

2. 参加者大学・人数

徳島大学 (5名)、東北工業大学 (5名)、八戸工業大学 (5名)、中央大学大学院 (2名)、中央大学、大阪府立大学、金沢大学、信州大学、大阪大学、兵庫県立大学 (各1名) 計23名

3. 訪問国

マレーシア

4. 日程

- | | |
|----------|--|
| 3月15日(火) | 出発前オリエンテーション
成田国際空港より出発、クアラルンプール着 |
| 3月16日(水) | 【表敬訪問】在マレーシア日本国大使館
【表敬訪問】マレーシア科学技術革新省 |
| 3月17日(木) | 【表敬訪問】マレーシアエネルギー・水・環境技術保全省
【学校交流①】マレーシア・日本国際工科院 |
| 3月18日(金) | 【学校交流②】マレーシアプトラ大学 |
| 3月19日(土) | 【市内視察 (シャー・アラム)】スルタン・サラフディン・アブドゥルア
ジズ・シャー・モスク
【ホームステイ】ホストファミリー(ドラニホームステイ)対面式 |
| 3月20日(日) | 【ホームステイ】
【市内視察 (クアラルンプール)】バトゥー洞窟 |
| 3月21日(月) | 【日系企業視察】ホンダマレーシア マラッカ工場
【ワークショップ】報告会準備 |
| 3月22日(火) | 成果報告会、歓送会
【市内視察 (クアラルンプール)】天后宮
クアラルンプール発 |
| 3月23日(水) | 成田国際空港到着 |

5. JENESYS2015 派遣プログラム記録写真 (派遣国：マレーシア) 大学生・大学院生

	
<p>3/16 【表敬訪問】 在マレーシア日本国大使館</p>	<p>3/17 【学校交流①】 マレーシア・日本国際工科院 日本の魅力発信：日本製モーターの効率性</p>
	
<p>3/18 【学校交流②】 マレーシアプトラ大学 マレーシア文化体験：ヘナ・タトゥー</p>	<p>3/19 【市内視察（シャー・アラム）】 スルタン・サラフディン・アブドゥル・アジズ・シャー・モスク</p>
	
<p>3/20 【ホームステイ】 ホストファミリーと</p>	<p>3/22 成果報告会</p>

6. 参加者の感想

◆ 信州大学 大学生

今回のマレーシア派遣でマレーシアと日本との深い関係を知ることができました。私が想像していた以上にマレーシアの経済は発展しており、驚きました。また、日本文化や日本語をよく知っている人が多いと感じました。大学交流では、日本語を上手に話せる人がいたり、日本のアニメやドラマを見てファンであるという人もいました。ただ、マレーシアでは、日本のアニメやドラマはYouTubeでしか視聴できませんが、韓国のアニメやドラマはテレビ放映されているため、近年、マレーシアでは韓国語学習やKポップがマレーシア人の間ではブームとなり、かつての日本語学習者も韓国語学習を始めているそうです。しかしその一方で、「未来へ」などマレーシア国民のほぼ全員が知っている日本の歌があることから、日本文化への人気も顕在とも言えると思います。私たちは、能動的に外国へ日本の文化や魅力を発信していくために更なる努力をすべきだと思います。

◆ 徳島大学 大学生

今回の訪問を経験して、日本は大改革をする必要があると考えます。日本人への英語教育の強化はもちろん、日本製品のシェアを確実なものにできる方策を考えるべきだと思います。このままにしていると、日本の企業は中国製品にシェアを奪われ、破産する恐れがあるからです。次に、宗教に対する理解も深めなければいけないと思います。日本には宗教に対して「怖い」という偏見を持っている日本人が少なからずいます。そういう人たちは、髪や肌をヒジャブや衣服で覆うイスラム教の女性を怖がります。そのため、学校教育の中で異なる宗教の習慣やその教義の概要を教えるようにしたらよいと考えます。帰国後伝えたいことは、普段の生活の中であまり触れる機会のないイスラム教徒、マレーシアの政府機関や企業によるイスラム教の教義や習慣への配慮、そして海外での見聞の重要性です。今後も、同様の交流プログラムに積極的に参加し、現地の人と話したり、触れたり、見たりして異文化理解を深めていきたいと思います。

◆ 八戸工業大学 大学生

最も印象に残ったことは、マレー系、中華系、インド系の3つの民族に加えて、多くの民族が混在するマレーシアでは、各民族の宗教、言語、観衆、文化は異なっていますが、それぞれが互いに尊重しつつ一つのマレーシアを形成していることです。また、マレーシアの人々の日本や日本人への印象がとても良いことを知り、嬉しくなりました。マレーシアの皆さんがとても親切で温かかったです。生活様式に関しては、最初はマレーシア式トイレに驚きましたが、徐々に慣れて、日本の持つ清潔さは世界では稀だと感じました。また、今回のプログラムでイスラム教について多く学べて良かったです。マレーシアは宗教による規制は比較的緩く、ある程度の自由がある良い国だと思います。マレーシアは2020年までに先進国になることを目標にしていますが、間違いなく発展していくと確信しています。今後はこの派遣プログラムの経験を基に世界の状況を考慮する社会人になることを目指します。

7. 報告会での報告内容（帰国後の発信計画）

<p>2. Attractive points of Japan</p>  <p>Actually Level of Japan's technology is so high ↓ Have confidence in ourselves ↓ Take action and act globally</p>	<p>3. Action plan after this program</p>  <ul style="list-style-type: none"> • Use "GO GLOBAL" HP • Presentation at high school • Exchange with foreign students in Japan
<p>日本の魅力：高度な日本の技術</p>	<p>アクションプラン：日本の高度な技術力発信のための英語力養成計画</p>
<p>Future network</p> 	
<p>アクションプラン：SNS を通じた日本人とマレーシア人のネットワーク構築</p>	<p>アクションプラン：相互理解のためのオンラインコミュニケーション形成</p>
<p>Introduce how to cook Japanese food</p> <p><u>Tools</u> videos, photos : take photos or make videos which shows how to cook ⇒ Any person can cook by himself/herself.</p>	<p>PURPOSE</p> <p>get people to know JAPANESE FOOD which is plain but delicious and nutritious</p> <p>↓</p> <p>get them to cook by themselves</p> <p>↓</p> <p>let them feel Japan close!</p>
<p>アクションプラン： 写真やビデオによる和食レシピを紹介</p>	<p>アクションプランの目的： 和食の調理と食事を通じて親日家が増加</p>